

研究ノート

本学学生の読解力調査と、その傾向と分析について

A Study on the Reading Comprehension of Our Junior  
College Students: Trends and Analysis

P3-9

天羽慎之介

AMABA Shinnosuke

造形芸術学科

## 1. 研究の背景と目的

### 1.1 読解力の重要性

読解力は現代社会の基本的な能力であり、知識を求め、理解し、コミュニケーションを行うための根幹となる。経済協力開発機構（OECD）が実施する国際的な学力調査 PISA（Programme for International Student Assessment、国際学習到達度調査）では、読解力を「文章を理解し、それを評価し、活用し、自分の目的を達成して、自分の知識と可能性を発展させ、社会に積極的に参加する力」と定義しており、数学的リテラシーと科学的リテラシーとともに重視している<sup>1</sup>。また、文部科学省が定義する学力の3要素では、読解力は『知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等』の一部として位置づけられている<sup>2</sup>。

2022年度から順次施行されている高校国語の学習指導要領に新たに設置された「論理国語」においても、論述力や批判的な読解力を育むことを目的としていることから、読解力とそれを基礎としたコミュニケーションはより重要性を増していると言える<sup>3</sup>。

### 1.2 読解力の定義と範囲

概念的意味としての読解力は、「文章を正確に読み、その内容を理解する能力。また、文章の背景や文脈を把握し、そこから必要な情報を引き出したり、意味を深く考察したりする力」などとされている<sup>4</sup>。しかし、前項で引用したように、読解力が影響する範囲は広範に渡っており、文字や文章の理解のみに作用するものではない。また、その能力の獲得や測定には、文脈や背景知識の活用と「聞く・書く・話す」能力も関連する。さらに、PISAの学力調査では、情報が文章で構成されている「連続型テキスト」と、図表やリスト、地図、グラフなど情報が分散して構成されている「非連続型テキスト」に分類して読解力を測定している。

このことから、本研究では読解力を「文章や図表などから必要な情報を正しく読み取る能力」とし、読み取った情報をアウトプットする際に基盤となる能力と定義付けする。

### 1.3 芸術とデザインの分野における読解力の影響

芸術とデザインの分野では、読解力は文章理解の能力に留まらず、視覚的・機能的・文化的な文脈を理解する力として重要である。作品の鑑賞においては、その背景や作者の意図、使用されるモチーフや比喩を正確に把握すること

は制作過程や批評活動において欠かせない。また、デザインの実践ではクライアントの要求や社会的課題を深く読み解き、解決策を具現化するために、図表の読解やビジュアルシンキングが必要となる。読解力の不足は、表面的なアイデアや誤解されたコンセプトを生む可能性があり、結果として作品の質を損なう要因となる。したがって、芸術・デザイン分野における読解力は創造性や表現力を支える基盤の一つであり、その影響は大きいと言える。しかし、読解力と創造力の直接的な関連性を示す研究は十分に行われていない。理由として、読解力をはじめとする認知能力だけが創造性へ作用するのではなく、非認知能力も大きく関係するためである。例えば色から受ける印象や、作品鑑賞の感想は正誤があるものではない。そして、それらは芸術とデザインの各分野においても多様な捉え方が存在している。

そのため、本研究ではまず本学学生の読解力を測定し、傾向を把握する。さらに学生が希望する専門分野を特性ごとに類型化することで、芸術・デザインにおける読解力がどのように作用する可能性があるかを分析し、読解力と芸術・デザインとの関連性を考察することを目的とする。

## 2. 研究方法と調査概要

### 2.1 リーディングスキルテストの概要

本研究では読解力の測定手法として、新井（2018）により開発された「体験版リーディングスキルテスト」を採用した<sup>5</sup>。理由は、リーディングスキルテスト（RST）が読解力の構成要素を精緻に分解し、客観的に評価できる信頼性の高いテストであることと、体験版は短時間で実施可能なためである。

RSTは読解力を全体ではなく素の能力に分解して測定する特徴を持つ。これにより、個人や群体の読解力を定量化できるため、読解の阻害要因を突き止めることに有効であり、教育やビジネスなどの分野で利用が推進されている。また、測定する能力は文章の理解のみならず、PISAと同様に図表の読解も含まれており、イメージや情報の可視化を扱う芸術・デザインの分野との関連性を探るに適切な手法であると考えられる。

### 2.2 リーディングスキルテストで測定する能力

図1はRSTで測定する能力を抜粋したものである<sup>6</sup>。読

解力を構成する要素として、係り受け解析、照応解決、同義文判定、推論、イメージ同定、具体例同定（辞書・理数）の7つの能力に分解して測定することにより、語彙や知識の多寡ではなく、文章や図表の論理構造を読解する力を評価できることが特徴である。また、出題される問題は背景知識に依存せず、統計的に妥当性が検証されているため、異なる対象集団間での比較が容易である（新井, 2018）<sup>7</sup>。

出題は選択肢式で、上述した7つの能力ごとに測定結果を数値化する。体験版での各能力測定の設定数は4問で10点満点となる。図1および図2-1,2-2は「係り受け解析」と「イメージ同定」の例題を抜粋したものである<sup>8</sup>。

係り受け解析	文の構造を正しく把握する。読解力の最も基礎となる能力
照応解決	代名詞が何を指しているかを正しく認識する
同義文判定	与えられた二文が同義であるかを正しく判定する
推論	既存の知識と新しく得られた知識から論理的に判断する
イメージ同定	文と非言語情報（図）を正しく対応づける
具体例同定_辞書	辞書の定義を用いて新しい語彙とその用法を獲得できる
具体例同定_理数	理数的な定義を理解し、その用法を獲得できる

図1 RSTで測定する能力値7分類  
出典：https://rst-web.s4e.jp/exampleより抜粋、一部修正

天の川銀河の中心には、太陽の400万倍程度の質量をもつブラックホールがあると推定されている。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから1つ選びなさい。

天の川銀河の中心にあると推定されているのは（ ）である。

天の川  銀河  ブラックホール  太陽

図2-1 RST例題（係り受け解析）

下記の文の内容を表す図として適当なものをすべて選びなさい。

四角形の中に黒で塗りつぶされた円がある。

図2-2 RST例題（イメージ同定）  
出典：一般社団法人 教育のための科学研究所（2019）「RSTパンフレット」, p.5（一部修正）

## 2.3 本学の教育システム

本学は芸術・デザインを学ぶ短期大学で、1学科を3つの領域（芸術表現領域、ビジュアルデザイン領域、生活環境デザイン領域）に分け、さらに10の系列（絵画系、立体造形系、写真系、グラフィックデザイン系、イラストレーション系、アニメーション・映像系、インテリアデザイン系、プロダクトデザイン系、ファッションデザイン系、陶芸系）を設けている<sup>9</sup>。このカリキュラムの特徴により、学生一人ひとりの目的や興味に応じて履修計画を立てることができる。例えば、イラストレーションを専攻しながら陶芸を学ぶ、グラフィックデザインと写真の両方を学ぶなど、複数の専門分野を組み合わせて学修することが可能である。

学生は2年次前期の履修登録にて、卒業後に希望する進路をふまえて、専門分野（系列）を決定する。

## 2.4 調査概要

調査は『体験版リーディングスキルテスト』を使用し、研究と教育の視座により実施した。概要を以下に記載する。

### ①対象

令和2年度から令和6年度に在籍し、特定の科目を履修した日本語を母国語とする1年生41名

### ②実施時期

1年次後期（9月～12月）

### ③出題と解答方法

令和2～5年度は問題用紙と解答用紙を配布、令和6年度は問題用紙を配布してGoogle Formsから解答とした。

### ④出題数と実施時間

28問／30分間

なお、教育の観点では、読解力を可視化することにより、学習者自身が読解の傾向や癖に気づき、学修と就職活動へ活かせるよう促すことを目的とした。また、測定結果を科目担当者と共有することで、指導上の配慮が可能になることもあった。実施にあたっては、事前にRSTの概要と実施目的を説明し、事後に測定結果と解答を返却することでフィードバックをおこなっている。

### 3. 読解力が芸術・デザインにどのように作用しているかの検証

#### 3.1 仮説

読解力は、創造性や視覚的理解力に直接的かつ間接的な影響を及ぼすと考えられる。創造性には新しいアイデアを生み出すだけでなく、それらを既存の文脈や概念と結び付け、適切に表現する力が含まれる。そのため、読解力が不足している場合、作品の意図が不明瞭になり、表現が単純化される可能性がある。この過程では、文章や図像、文化的な文脈を正確に読み取る読解力が重要な役割を果たす。

例えば、美術作品を鑑賞する際、背景情報や象徴的な意味を深く理解することが鑑賞者の感性や解釈を豊かにし、新たな視点を生み出す基となる。同様にデザインの実務においても、クライアントの要望や仕様書を正確に読み取り、解釈をして、それを具体的なデザインへ落とし込むには読解力が不可欠であると言える。読解力が不足すると、情報の表面的な解釈にとどまり、アイデアが独創性に欠けたり、視覚的な説得力が乏しくなる恐れがある。

このため、読解力がどのように創造性や実践能力に影響を与えるかを検討することは、教育カリキュラムの改善や指導方法の開発に有用な示唆を与えると期待される。

#### 3.2 分析方法

本研究では、体験版RSTの測定結果を以下の手順で整理して分析をおこなった。

##### (1) 全体分析

まず、対象者41名の測定結果を集計し、以下の方法で読解力の傾向を把握した。

##### ①基本統計量の算出

各能力（係り受け解析、照応解決、同義文判定、推論、イメージ同定、具体例同定\_辞書、具体例同定\_理数）の平均値および最頻値を算出してグラフ化した（図3）。

##### ②基準値との比較

体験版RSTで提示されている「ビジネスパーソンとして持っていて欲しい基準値」の6点を参照し、基準値を超えた学生の割合を表にまとめた（表1）。

##### (2) タイプ別分析

次に、本学で開講している10系列の専門分野を教育内容

や求められるスキルの特性に基づき、以下の3タイプに類型化して、測定結果を比較分析できるようにした。

##### ①専門分野の類型

タイプ1：自由な表現が求められる分野

対象者11名

タイプ2：テクニカルワークが求められる分野

対象者15名

タイプ3：クライアントワークが求められる分野

対象者15名

##### ②タイプごとの基本統計量の算出

各タイプの測定結果を集計し、各能力の平均値を算出してグラフ化した。これにより、タイプ間の比較をおこない読解力の傾向を分析した。

##### ③基準値との比較

全体分析と同様に、基準値6点を超えた学生の割合をタイプ別に表へまとめた（表2）。

##### (3) 結果の統合的分析

全体およびタイプ別の分析結果を基に、以下の観点で考察をおこなった。

- ・本学学生の読解力の傾向と特徴
- ・タイプ分けした専門分野の特性と読解力との関係

なお、対象者の分類は、令和2年度から5年度に在籍した18名は2年次に選択した専門分野（系列）を基準とし、令和6年度に在籍している23名は1年次後期に実施した専門（系列）希望調査を基におこなった。

## 4. 測定結果の分析

### 4.1 全体の測定結果と傾向

全体の測定結果（図3）と、6点を超えた学生の割合（表1）を下図に示す。

#### (1) 傾向と分析

- ・「係り受け解析」が高い  
本学の学生は文法的な構造を正しく捉える力を身につけており、確かな読解力の基盤をもっている。
- ・「推論」「イメージ同定」が低い  
文脈をもとに意味を推測する力、イメージを正しく捉える力が弱い。

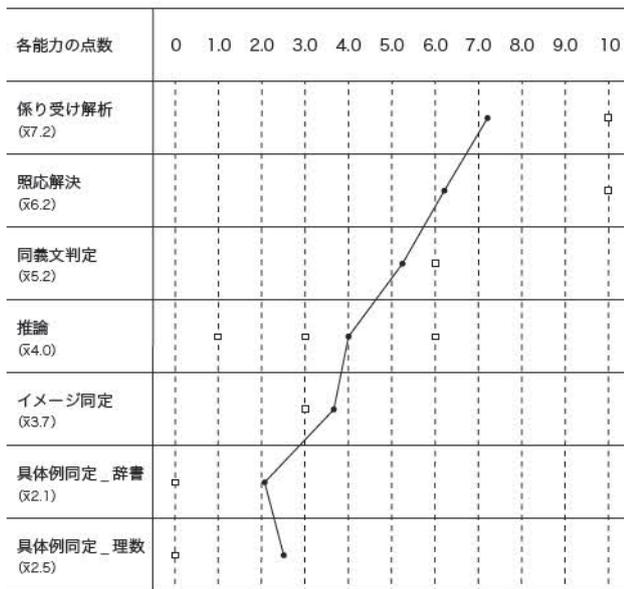


図3 RST測定結果の平均値と最頻値（全体）  
●は各能力の平均値、□は最頻値を示す

表1 6点を超えた学生の割合（全体）

	学生全体での割合
係り受け解析	83 %
照応解決	63 %
同義文判定	51 %
推論	37 %
イメージ同定	32 %
具体例同定_辞書	5 %
具体例同定_理数	12 %

・「具体例同定（辞書・理数）」が特に低い  
抽象概念の理解と、具体例の対応付けが苦手である  
可能性がある。

(2) 傾向から想定されるリスクとベネフィットの考察

①抽象的な概念の具体化が苦手

「具体例同定」は、一般的な概念と具体例を正しく対応づける力を測る指標となる。そのため、このスコアが低いことにより、抽象的な説明を具体的な事例と結びつけることに苦手意識をもつ可能性がある。

②読解の精度は高いが、情報の統合が不得意

「係り受け解析」のスコアが高いことから、文の構造や主語・述語の関係を正しく把握する能力が高いと考えられる。また、「照応解決」のスコアも高いため、代名詞や指示語が何を指しているのかを正しく理解できている。しかし、それらと比較して「具体例同定」が低いため、個々の文の理解はできても、複数の文を関連付けたり、全体の文脈を踏まえた読解が苦手で、意味のまとまりを統合する力が不足している可能性がある。

③背景知識の不足

具体例を認識するには、ある程度の背景知識が必要となる。そのため、一般的な概念と具体例を結びつける場面では、知識や語彙の不足により、具体例を正しく認識できない可能性がある。

一方で、既存の知識体系や論理に依存しないことも示唆されている。例えば、詳細な情報分析よりも直感的な把握が発想に活かされる場面や、コンセプトに囚われず、感覚的に表現を展開することで独創的な作品を生み出す可能性もある。また、複数の解釈が成り立つ状況を受け入れやすくなるため、曖昧さや抽象性を活かした表現により、鑑賞者によって異なる解釈を促す作品を創出する可能性がある。

4.2 タイプ別の測定結果と傾向

タイプごとの測定結果（図4）と6点を超えた学生の割合（表2）を下図に示す。

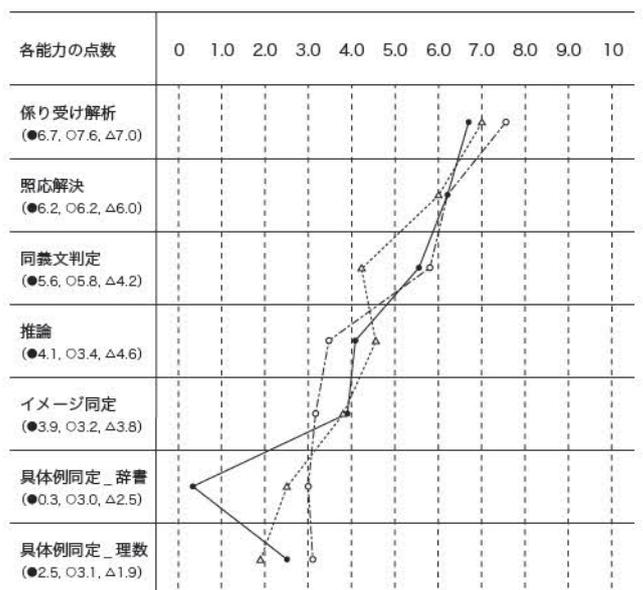


図4 RST測定結果の平均値（タイプ別）  
●はタイプ1、○はタイプ2、△はタイプ3の平均値を示す

表2 6点を越えた学生の割合（タイプ別）

	タイプ1の割合	タイプ2の割合	タイプ3の割合
係り受け解析	82%	80%	87%
照応解決	55%	67%	67%
同義文判定	45%	60%	47%
推論	36%	33%	40%
イメージ同定	27%	27%	40%
具体例同定_辞書	0%	13%	0%
具体例同定_理数	9%	13%	13%

### (1) 傾向と分析

- ・タイプ1に見られる「係り受け解析」と「具体例同定（辞書）」の極端な差

文章の基本的な意味を把握する力は十分に備わっているが、そこから深い意味を読み取る力が弱い傾向がある。

- ・全てのタイプで「イメージ同定」が低め

図表に書かれた情報をもとに、イメージを再構築する力が弱い可能性がある。

### (2) 傾向から想定されるリスクとベネフィットの考察

#### ①抽象的思考の優位性

「自由な表現が求められる分野」を希望する学生は、具体的な事例を分析するよりも、抽象的な表現や感覚的な判断を重視している可能性がある。一般的に美術や音楽などの分野では、明確な定義や一対一の対応関係よりも、曖昧さや多義性を受け入れることが求められるため、具体例を正確に識別することに対する意識が低くなる可能性がある。これは、理論的な学習の場面では課題となる可能性がある。例えば、デザインのコンセプトや芸術の制作背景を説明されたときに、その抽象的な概念を具体的な事例へ結びつけることが難しく、実践への応用が難しい可能性がある。

#### ②イメージの具体化が苦手である可能性

芸術・デザインの分野では、情報やイメージを視覚的・機能的な表現に変換するスキルが求められるが、この能力が低いことにより、指示や要望をうまく具体化できない可

能性がある。例えば、美術史やデザイン論のテキストから作品の特徴を正しくイメージできなかつたり、仕様書やコンセプトを表現に落とし込むことが難しい可能性がある。

#### ③具体例の理解が弱いため、理論の応用が困難

「辞書的な定義をもとに具体例を特定する」という作業は、言語の厳密な運用を求められる場面で重要である。一方、芸術の分野では、定義よりも比喩や感覚的な理解が重視される場面があるため、語彙を正確に結びつける訓練が不足している可能性がある。それにより、芸術・デザインの学習に影響を与える可能性がある。例えば、抽象的な概念（例：「ミニマリズム」「構成主義」「バウハウスのデザイン原則」など）を作品やプロジェクトに応用する場面や、制作者のステートメントやコンセプトを伝える場面において、具体例を適切に示すことが困難な場合、説得力のある説明が難しくなるかもしれない。具体的な構成要素や歴史的な背景を適切に示すことができなければ、相手へ正しく意図が伝わりにくくなるためである。

しかし、読解力に依らないことにより、デザイナーがクライアントの要望を過剰に解釈せず、比較的自由的な解釈で新しい提案を生み出すことができる可能性もある。読解に頼らず、視覚や体験を通じて情報を理解しようとするため、色彩感覚や空間、フォルムの直感的な把握が向上する可能性がある。例えば、プロダクトデザインではユーザーの体験を重視し、言語的な説明に頼らないデザインの提案や、映像編集では映像美や感情表現にフォーカスした制作、広告デザインでは言葉よりもビジュアルインパクトを優先し、感覚的に訴えかける手法などである。

特に、視覚的・体験的な創造性を求められる分野では、読解力に依存しない発想が、新しい価値を生む可能性がある。

## 5. 総括

本研究より、本学で芸術・デザインを学ぶ学生は文の構造を把握する力（係り受け解析）は強いが、抽象概念と具体例の対応（具体例同定）、イメージの把握（イメージ同定）が苦手であることが示唆された。この傾向は、以下のような影響を学修に与える可能性がある。

- ・デザイン理論や美術史の理解が浅くなりがち
- ・言葉を視覚的機能的表現に変換する力が弱いため、制

- 作の指針を見出しにくい
- ・抽象概念を具体的な作品やプロジェクトに応用する力が不足する
  - ・批評やプレゼンテーションにおいて、論理的な説明が難しい

この課題を克服するためには、具体例を交えた説明を意識する訓練や、言葉と表現の結びつきを強化する学習（例：文章をもとにしたビジュアルスケッチの練習、デザイン概念を自分の言葉で説明するトレーニング）などが有効と考えられる。

## 謝辞

本研究を遂行するにあたり、体験版リーディングスキルテストの使用を快諾いただいた一般社団法人教育のための科学研究所に深く感謝申し上げます。

また、本学教員の中谷正史氏には、リーディングスキルテストを実施する貴重な機会をご提供いただきました。

ここに記し、関係者の皆様に心より感謝の意を表します。

## 注および参考文献

- 1) 初等中等教育局教育課程課. 「1 PISA 調査における読解力の定義, 特徴等」. 文部科学省.  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku/siryu/1379669.htm?utm\\_source=chatgpt.com](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryu/1379669.htm?utm_source=chatgpt.com) (参照2024-02-13)
- 2) 初等中等教育局教育課程課. 「第1章 言語活動の充実に関する基本的な考え方」. 文部科学省.  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/gengo/1306118.htm?utm\\_source=chatgpt.com](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1306118.htm?utm_source=chatgpt.com) (参照2024-02-13)
- 3) 文部科学省. 「高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 国語編」. 平成30年7月. p.144
- 4) 新村出 (2018). 「広辞苑 第七版」. 岩波書店
- 5) 新井紀子 (2019). 『AIに負けない子どもを育てる』. 東洋経済新報社
- 6) 一般社団法人教育のための科学研究所.  
「RSTパンフレット\_201912.pdf」.  
<https://rst-web.s4e.jp/about-s4e> (参照2024-02-13)
- 7) 国立情報学研究所 社会共有知研究センター.  
「リーディングスキルテストで測る読解力とは」.  
[https://www.nii.ac.jp/userimg/press\\_20160726-1.pdf](https://www.nii.ac.jp/userimg/press_20160726-1.pdf)  
(参照2024-02-13)
- 8) 一般社団法人教育のための科学研究所.  
「RSTパンフレット\_201912.pdf」.  
<https://rst-web.s4e.jp/about-s4e> (参照2024-02-13)
- 9) 九州産業大学造形短期大学部. 「10系列の学び」.  
中村産業学園.  
[https://www.zokei.kyusan-u.ac.jp/course/?utm\\_source=chatgpt.com](https://www.zokei.kyusan-u.ac.jp/course/?utm_source=chatgpt.com) (参照2024-02-13)